

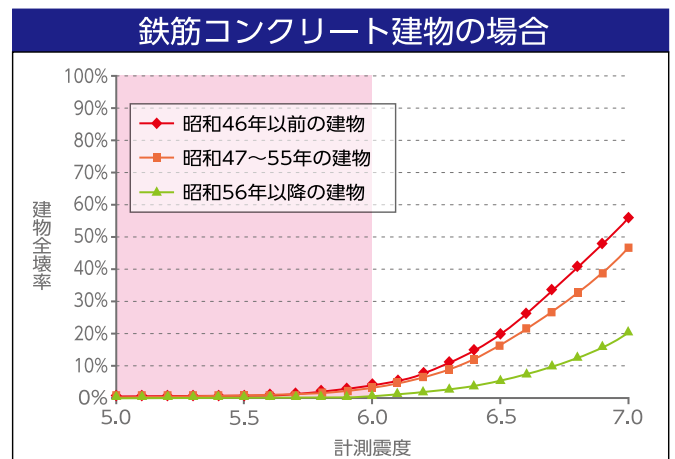
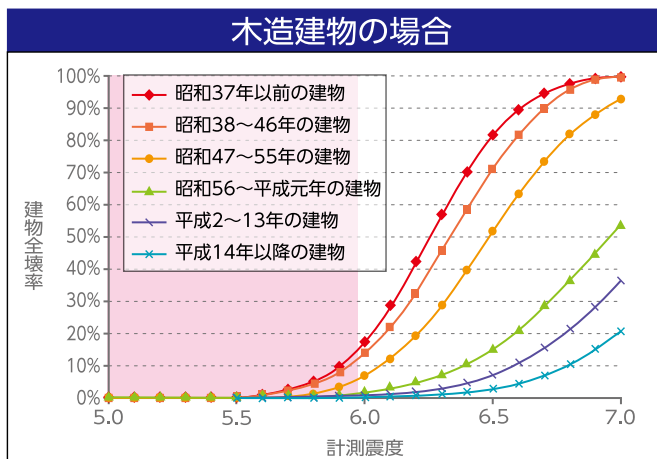
第6章 日頃からの備え

過去の日本で起こった大きな地震災害では、建物倒壊によって多くの人が亡くなっています。阪神・淡路大震災では、地震によって亡くなった方の約9割が、建物倒壊や家具転倒等によるものでした。平成25年に滋賀県が調査した地震被害想定でも、想定死者数の88%が建物倒壊という結果となっています。また、地震時には、避難生活を余儀なくされる方が多数発生します。このような事態に備え、日頃から地震対策を進めておきましょう。

日頃からの備え その① 自分の住まいの安全対策を考えよう!

どのような家が壊れやすいの?

揺れによる建物被害は、建物の構造や建築された年によって被害の傾向が異なり、木造で古い建物ほど地震時に倒壊する恐れが高くなります。過去に発生した地震時の被害状況を調べてみると、震度と全壊建物の関係は以下のような傾向になっています。特に、建物の建築基準改定前である昭和56年以前になると建物全壊率は高くなります。



※内閣府公表資料より抜粋

自分の住まいを調べてみよう

自分の住まいの状態を知るための方法として、耐震診断があります。耐震診断では、想定される地震に対する安全性(耐震性)、受ける被害の程度を判断します。滋賀県では、県内の市町と協力して「木造住宅無料耐震診断員派遣」の支援を行っています。詳しくは、お住まいの市町の担当課におたずね下さい。

自分の住まいの補修・補強をしよう

家に傷みや腐朽、シロアリの被害があると、建物が壊れやすくなります。必要に応じて、日常の点検や建物の補修・補強を行いましょ。また、滋賀県では、県内の市町と協力して、「木造住宅耐震・バリアフリー改修工事補助」の支援を行っています。詳しくは、お住まいの市町の担当課におたずねください。



まずは、自分の住まいを知ることが重要なあ。耐震診断などで自分の住まいの状態を知っておこう!

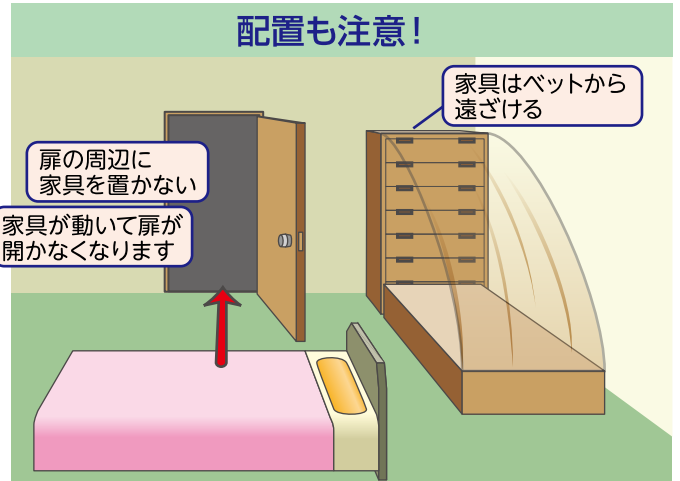
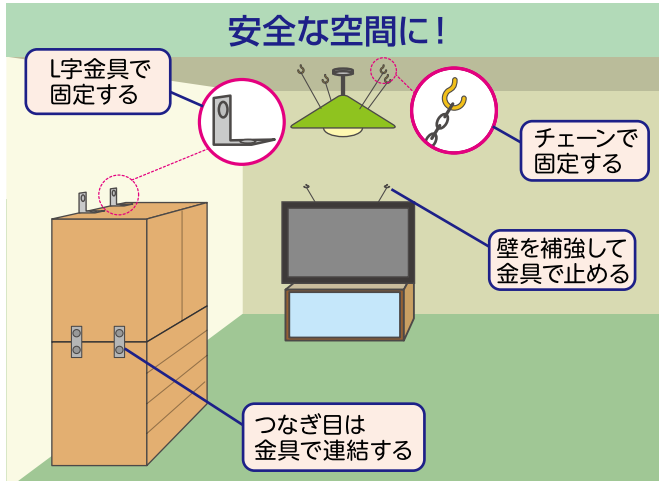


日頃からの備え その② 家具の固定と配置を見直そう!

地震が発生したら、あなたの身の周りの物が危険物となります。このような危険物から身を守るためには、家具を固定したり、家具の配置に気を配ることが大切です。

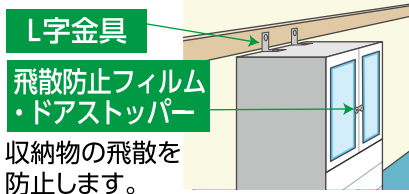
家庭でできる地震対策4つのポイント

1	安全な空間を確保する	2	家具の配置に気を配る
3	転倒防止器具等で固定する	4	収納物の飛散を防止する

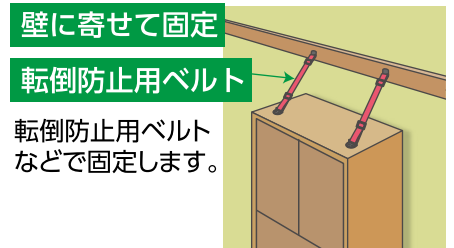
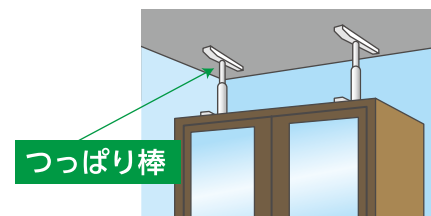


■金具で家具を固定します ■つっぱり棒で固定します ■ベルトなどで固定します

下地などの強度を確認の上、L型金具で固定するのが、最も効果的です。

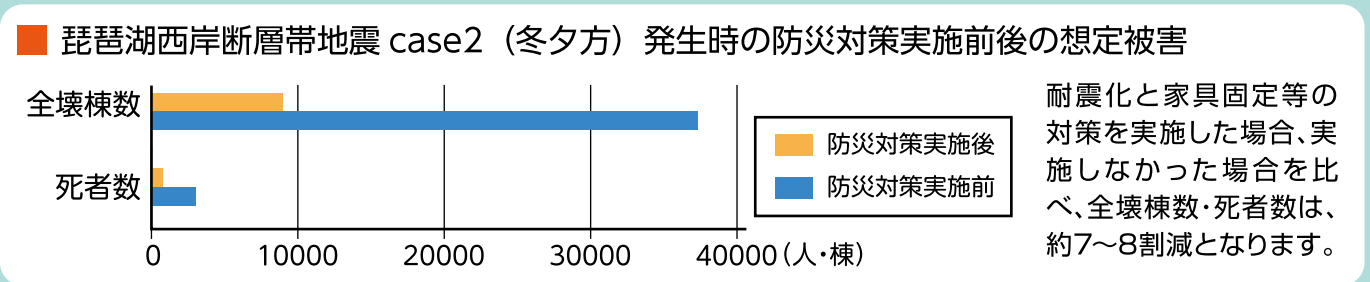


天井がしっかりしていて、すきまが小さい場合に効果的です。



防災豆知識⑤ 県内の耐震化、家具固定率は、全国平均と比べ低い!

過去の地震災害時には、建物の倒壊や、屋内の家具転倒等で多くの方が亡くなっています。そのため、この建物の倒壊を防ぐ耐震化や、家具等の転倒防災対策を行うことは、非常に重要です。滋賀県では、昭和56年以前に建築された住宅が約25%になります。また、家具固定は、全国平均40% (平成25年度時点) に対して、滋賀県は18.2% (平成23年度時点) と低い状態です。防災対策として耐震化、家具固定を100%実施した場合の想定被害を試算した結果、非常に高い効果があることが分かりました。



※防災対策として耐震化100%、家具の固定等転倒防止対策100%等を実施した場合の試算結果(平成25年度滋賀県地震被害想定結果より抜粋)

非常持出品の準備

大地震が発生すると、電気・水道などのライフラインが長期間止まることもあります。また、「南海トラフ巨大地震」のような広範囲に被害を及ぼすような地震時は、全国的に物資が不足し、入手することが困難になります。地震後の生活に備え、非常持出品の準備や、家庭内備蓄を行っておきましょう。

非常持出品

		チェック欄	チェック欄
	ラジオ(AM・FM両方聞ける物が便利)		
	懐中電灯(できればひとつに一個)		
	予備の乾電池		
救急薬品	バンソウコウ・ほうたい・きず薬・鎮痛剤・胃腸薬。持病のある人は常備薬も忘れずに。	衣類・防寒着	下着・靴下
			上着
非常食品	飲料水	レインコート	タオル
	乾パン		
	缶詰等(火を通さないで食べられるもの)	ライター・マッチ	
	紙コップ・紙皿	ティッシュ・ウエットティッシュ	
	ナイフ・缶切	カイロ	
貴重品	現金(10円硬貨もあると便利)	ラップ	
	通帳・印鑑	ヘルメット	
	健康保険証のコピー	軍手	
	免許証・身分証明書		



※高齢者、障がい者、乳幼児等がいる家庭は、それぞれ必要なものを準備しておきましょう。

家庭内備蓄品

		チェック欄	チェック欄
食品	米	その他	ティッシュペーパー
	缶詰など		毛布・衣類・防寒着
	菓子類		洗面具・衛生用品
	レトルト・インスタント食品		紙皿・紙コップ・割りばし
水	飲料水は一人1日3リットルを目安にペットボトルなどに用意しておく。	簡易トイレ	
燃料	卓上コンロ(予備のガスボンベは多めに用意)やアウトドア用の携帯コンロ・固形燃料。	ロープ	
		工具セット	



※3日以上 の 備蓄 に 努め まし ょう。

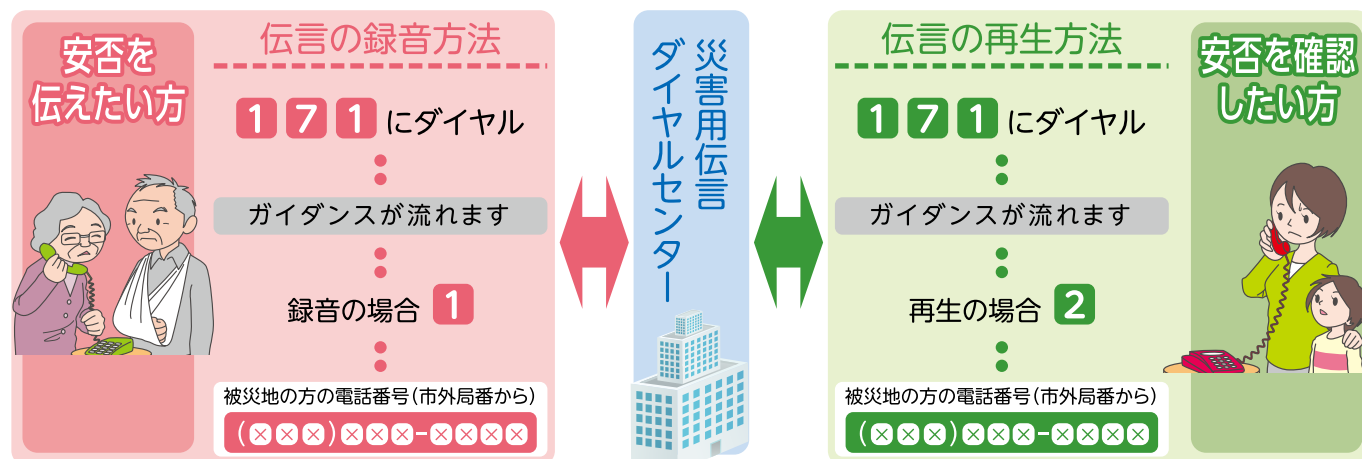
地震が起きた後は…

大きな災害が発生すると、通話の規制が行われるため、電話がつながりにくい状態になります。そのような状態になった時には、電話会社や携帯電話会社が安否情報を確認するための伝言板サービスが開設されます。いざというときに家族と連絡が取れるように使い方を覚えておきましょう。

NTTの災害用伝言ダイヤル（171）は固定電話や公衆電話から「171」とダイヤルすると利用できます。

※公衆電話は、災害時には優先電話として扱われ、他の電話に比べると繋がりがやすくなっています。

ご利用方法



伝言板サービスは災害時しか利用できませんが、次の期間には体験利用することができます。体験利用して使い方を覚えましょう。

- 毎日1日、15日 ○正月三が日（1月1日～3日） ○防災とボランティア週間（1月15日～21日）
- 防災週間（8月30日～9月5日）

くわしい使い方はインターネットのホームページに書いてありますので、いつでも使えるように使い方を調べておきましょう。

災害用伝言ダイヤル（171）	http://www.ntt-west.co.jp/dengon/
災害用伝言板	NTTドコモ https://www.nttdocomo.co.jp/info/disaster/disaster_board
（携帯電話・PHS）	au https://www.au.com/mobile/anti-disaster/saigai-dengon/
	ソフトバンク https://www.softbank.jp/mobile/service/dengon/
	ワイモバイル https://www.ymobile.jp/service/dengon/

災害用ブロードバンド伝言板（web171） <https://www.web171.jp>



滋賀県
Shiga Prefecture

防災危機管理局

〒520-8577 滋賀県大津市京町四丁目1番1号
TEL：077-528-3432 FAX：077-528-6037